2022年度活動概要　　ELF研究会

2022 年度は新型コロナウィルス感染症の影響により休止やオンライン移行していた各種イベントを対面およびハイブリッド実施した節目の１年であった。以下のイベントや刊行物を通じて研究会のテーマである「ELF in business and academic settings; ELF and Pedagogy; Identity, culture, language attitude and ELF; ELF and multilingualism/translingualism; ELF and language policy」についての意見交換・理解の深化、及び情報発信に取り組んだ。

- 2020 年度より実施している、夏の勉強会を 8 月 29 日に実施した(Zoom 開催)。今年度の勉強会では研究を円滑に進める上で有益な各種ツールについて有志を中心に情報交換を行った。
- 第 3 回 ELF SIG 国際ワークショップを 12 月 16 日、17 日に実施した(於 早稲田大学、Zoom)。本イベントは、ビジネス現場における英語と多言語の使用実態に関するビジネスパーソン 2 名による講演、研究発表パネル、及び Alessia Cogo (Goldsmiths, University of London)氏と Janus Mortensen 氏(University of Copenhagen)による特別講演で構成され、理論と実践の有機的融合を促す有意義な会となった。
- 第 4 回 ELF SIG 国際ワークショップを 2 月 25 日に実施した(於 早稲田大学、Zoom)。科研費採択課題「多言語ビジネス環境での共通語としての英語使用実態調査とグローバル人材育成教育」（19H01290)の研究報告、及び Li Wei 氏(UCL Institute of Education, University College London)と Janus Mortensen 氏(University of Copenhagen)による特別講演が行われた。研究会内外から 100 名を超える参加があり、活発な議論の場となった。
- 第 5 回 ELF SIG 国際ワークショップを 2 月 26 日に実施した(於 早稲田大学、Zoom)。本イベントでは特に (B)ELF 研究の教育への還元を標榜し、玉川大学 ELF センターの教育・研究実践についての発表と、及び Barbara Seidlhofer 氏（University of Vienna）と Henry Widdowson 氏（University of Vienna）による特別講演が行われた。また、イベントの締めくくりには、第 4 回・5 回ワークショップの特別講演者 4 名によるパネルディスカッションも実施され、共通のテーマや今後の課題についての深い学びが得られた。

上記のほか、SIG 会員が以下のイベントの運営でそれぞれ活躍した。

- 愛知大学「国際英語」教育研究会フォーラム　(10 月 15 日 Zoom 開催)
- Beyza Björkman Nylén 氏特別講演　(11 月 16 日 於 早稲田大学)
- ふたば未来学園ラボ主催イベント「English is English?: 英語を考え直す」（2 月 24 日 於 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校)

また、2022年12月にはSIG会員から募った投稿論文をもとに編纂したJACET ELG SIGジャーナル（電子版）第6号を発刊した。 SIG活動の詳細はhttps://jacetelf.wordpress.com/を参照されたい。